科　目　名	基礎看護学実習Ⅰ	単位数	1	時 間 数	45
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
実 習 目 的	1. 様々な場で展開される看護を見学し、看護の役割を理解する 2. 協働する医療従事者を知る 3. 看護を受ける患者の思いを知る				
実 習 目 標	1. 急激な健康障害が生じた対象における看護の役割がわかる 2. 慢性的な健康障害を持つ対象における看護の役割がわかる 3. 対象に関わる医療従事者の職種と役割がわかる 4. 看護を受ける患者の思いがわかる				
実 習 内 容	1. 外来受診をする対象における看護の役割がわかる 1）施設の物理的環境・人的環境がわかる 2）受診が必要になった理由がわかる 3）どのような診察・治療・処置が行われているかわかる 4）どのような看護が行われているかわかる 5）看護者がどのように記録や報告・報告・連絡・相談をしているかわかる 6）看護者の思いを知る 2. 入院している対象における看護の役割がわかる 1）施設の物理的環境・人的環境がわかる 2）患者がどのように過ごしているかわかる 3）看護者が行っている日常生活援助がわかる 4）看護者が行っている治療・処置・検査の援助がわかる 5）看護者がどのように記録や報告・報告・連絡・相談をしているかわかる 6）看護者の思いを知る 3. 対象に関わる医療従事者の職種と役割がわかる 1）患者に関わる医療従事者の職種がわかる 2）患者に関わる医療従事者の職種の役割の違いがわかる 4. 看護を受ける患者の思いがわかる 1）インタビューなどにより対象が感じていることや思いを知ることができる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	基礎看護学実習Ⅱ	単位数	1	時 間 数	45
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
実 習 目 的	1. コミュニケーション技術を用いて受け持ち患者の情報収集ができる 2. 収集した情報をもとに、受け持ち患者に適切な日常生活の援助ができる				
実 習 目 標	1. 患者を知るための情報を収集できる 2. 受け持ち患者の状態が助言でとらえられる 3. 受け持ち患者の日常生活援助を計画できる 4. 計画にそって実践することができる 5. 実施後、評価し修正することができる				
実 習 内 容	1. 患者を知るための情報を収集できる 1）患者の日常生活行動に関する情報を収集する 2）患者の発達段階や生活歴に関する情報を収集する 2. 受け持ち患者の状態が助言でとらえられる 1）患者の健康障害の種類や健康の段階に関する情報について助言を受け、患者の現状を把握する 3. 患者に必要な日常生活援助を計画する 4. 計画にそって実践することができる 1）患者の反応を観察しながら援助を実施する 5. 実施後、評価し修正することができる 1）援助後、プロセスレコードを用いて、目的・患者の反応をもとに振り返りをする				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	基礎看護学実習Ⅲ	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
実 習 目 的	看護過程を使って、受け持ち患者の日常生活の援助ができる				
実 習 目 標	1. 患者を知るための情報を収集できる 2. 看護上の問題を明確にできる 3. 目標を設定し、具体的な計画を立てることができる 4. 計画にそって実践することができる 5. 実施後、評価し修正することができる				
実 習 内 容	1. 患者を知るための情報を収集できる 1)患者の日常生活行動に関する情報を収集する 2)患者の健康障害の種類や健康の段階に関する情報を収集する 3)患者の発達段階や生活歴に関する情報を収集する 2. 情報を整理・分析し、統合し看護上の問題を明らかにし、看護の方向性を見いだす 3. 目標を設定し、具体的な計画を立てることができる 1)患者がいつまでにどうなるという目標を立てる 2)目標を達成できるための方法を立てる 4. 対象の反応を観察しながら援助を実施する 5. 援助後、目標、方法に対しての振り返りをする				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	地域と人々の暮らし実習	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
実 習 目 的	1. 地域で暮らしている人々と関わり、多様な価値観をもつ生活者としての対象の理解を深める 2. 地域におけるその人らしい個人・家族の健康と暮らしに関わる支援を考える力を身につける				
実 習 目 標	1. 地域で暮らす人々に生活状況や思い、健康観、価値観等についてたずね、個人とその家族が地域・在宅で暮らすとはどのようなことなのかわかる 2. 地域の様々な人々の暮らしや健康を支えるために、どのような支援や社会資源があるかを知る 3. 相手を尊重した態度で対象と関わることができる 4. 実習における自己の課題を果たすことができる 5. 対象とのかかわりや、実習を通して振り返りができ、自己の課題を明確化することができる				
実 習 内 容	1. 地域で暮らす人々に生活状況や思い、健康観、価値観等についてたずね、個人とその家族が地域・在宅で暮らすとはどのようなことなのかわかる 1)地域の方のインタビューを通し、対象の生活状況、思い、健康観、価値観、生きがい等を理解する 2. 地域の様々な人々の暮らしや健康を支えるために、どのような支援や社会資源があるかを知る 1)地域における社会資源を知り、対象への影響がわかる 3. 看護学生としての自覚と責任をもち、相手を尊重した態度で対象と関わることができる 1)看護学生としてふさわしい態度を身に着け、相手を尊重することができる 4. 実習における自己の課題を果たすことができる 1)実習における自己の役割を遂行できる 5. 対象とのかかわりや、実習を通して振り返りができ、自己の課題を明確化することができる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	地域施設実習	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
実 習 目 的	地域における様々な施設で生活している対象の看護活動の実際を理解し、 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解する				
実 習 目 標	1. 施設における対象の生活状況および特徴と生活を継続するために必要な支援についてわかる 2. 対象の生活を支える様々な職種の役割と、保健医療福祉チームにおける看護職の役割がわかる 3.　看護学生としてふさわしい態度を身につけ、相手を尊重している				
実 習 内 容	1. 受け持ち入所者の状態や状況に合わせた日常生活援助がわかる 2. 老いや疾病、障がい（害）等の健康上の課題を持つ人の生活を支える支援がわかる 3. 受け持ち入所者の生活を支える家族および様々な職種の役割とその連携・協働についてわかる 4. 地域における施設の役割がわかる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	地域・在宅看護論実習	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実 習 目 的	地域で療養する個人とその家族を理解し、在宅で看護を実践するために必要な基礎的能力を養う				
実 習 目 標	1.　疾病や障害をもちながら生活の場で療養する対象を理解する 2.　在宅で療養する対象の訪問看護の目的を理解し、看護の実際を理解する 3.　在宅における終末期にある対象の看護の実際を学ぶ 4.　地域での看護活動の実際から、在宅療養者を支えるための保健・医療・福祉の連携を知り、看護の役割を理解する				
実 習 内 容	1. 対象の在宅看護に至った経過がわかる 2. 対象および家族の現在の健康状況と生活状況について情報収集ができる 3. 対象の全体像から在宅で療養する上での対象とその家族の問題が理解できる 4. 対象および家族の意思を尊重した実現可能な目標設定ができる 5. 対象および家族の生活状況を考慮した具体策が立案できる 6. 在宅における生活環境に応じた援助が考えられ、指導者と共に実施できる 7. 在宅における診療の補助技術の実際を通して援助の工夫と応用を知る 8. 在宅における対象および家族に上記の６・７について指導の実際を知る 9. 在宅における終末期にある対象と家族への援助の実際から、在宅での終末期の看護が考えられる 10. 在宅看護における継続看護の実際を知る 11. 地域で療養を継続するための保健医療福祉の連携に対して 1）訪問ケースを通して、保健医療福祉の連携と協働がどのように行われているかわかる 2）保健医療福祉チーム内で情報を共有することの必要性がわかる 3）訪問ケースから社会資源の活用状況を知る 4）訪問ケースを通して保健医療福祉チームの中での看護師の役割を理解する				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	多職種連携実習	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
実 習 目 的	入院から退院までの多職種の連携・協働を知り、看護の役割を理解することができる				
実 習 目 標	1. 対象の受けている治療・処置・検査に応じた看護がわかる 2. 入院から退院までの多職種の連携・協働、看護の役割がわかる				
実 習 内 容	1. 対象の受けている治療・処置・検査に応じた看護がわかる 1）外来、検査室、内視鏡室、手術室、集中治療室等で対象の受けている治療・処置・検査の実際を知る 2）検査・治療・処置の前・中・後の看護がわかる 3）緩和ケア病棟におけるケアの実際を知る 4）緩和ケアにおける看護がわかる 2. 入院から退院までの多職種の連携・協働、看護の役割がわかる 1）外来、検査室、内視鏡室、手術室、集中治療室、緩和ケア病棟等で働く職種と役割がわかる 2）多職種の連携・協働の実際を知る 3）多職種の中での看護の役割がわかる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	老年看護学実習	単位数	2	時 間 数	90
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実習目的	老年者の老化のもたらす影響を理解し、健康障害のある老年者の健康問題を解決できる				
実習目標	1. 老化と健康障害のある対象の健康問題を把握できる 2. 老年期の発達段階に応じた援助がわかる 3. 対象の状態に応じた援助ができる 4. 治療・処置を受ける対象に応じた援助ができる 5. 老年者の看護の継続の必要性や多職種との連携・協働が理解できる				
実習内容	1. 老化と健康障害のある対象の健康問題を把握できる 1）対象の疾病の特徴を理解できる 2）老化がもたらす日常生活行動・健康状況と生活背景・生活習慣との関係が理解できる 2. 老年期の発達段階に応じた援助がわかる 1）健康障害が発達課題や対象の生き方にどのように影響するかわかり援助ができる 2）老年者である対象に尊重した態度で接することができる 3）コミュニケーションの障害に応じた接し方、聴き方ができる 4）老年者の立場を考え自尊心を大切にした援助ができる 3. 対象の状態に応じた援助ができる 1）老年者の健康障害を把握し、回復期または慢性期の経過に応じた援助ができる (1)回復期にある老年者の援助ができる ①障害された機能の回復と残存機能の維持・増強のための援助ができる ②廃用症候群・二次障害を予防するための援助ができる ③日常生活の自立に向けての援助ができる (2)慢性期にある老年者の援助ができる ①廃用症候群・二次障害を予防するための援助ができる ②残存機能を活用した生活を送るための援助ができる (3)健康障害から起こる各症状に応じた援助ができる (4)対象の退院後の生活について家庭及び支援者への指導の必要性がわかる 4. 老年者の心身に及ぼす影響がわかり援助ができる 5. 老年者の看護の継続の必要性や多職種との連携・協働が理解できる 1）入院にいたるまでの経過、退院に向けた支援がわかる 2）自立・社会復帰に向けての看護の継続がわかる 3）老年者及び家族を支援する多職種がわかる 4）多職種の人々との連携・協働の必要性がわかる				
評価方法	評価表に則って評価する				

科　目　名	成人・老年看護学実習Ⅰ	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実 習 目 的	成人・老年期の特徴を理解し、侵襲からの回復過程にある対象の健康問題が解決できる				
実 習 目 標	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる 2. 対象の発達段階に応じた援助ができる 3. 対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた援助ができる 4. 対象の受けている治療・処置・検査に応じた援助ができる 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解し行動ができる				
実 習 内 容	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる 1）対象を病像・生活像・社会像の３側面からとらえることができる 2）看護上の問題と看護の方向性を明らかにできる 3）目標が設定でき、その優先順位をつけることができる 4）目標を達成するための具体的な計画を立てることができる 5）計画に沿って実施することができる 6）実施後目標の達成度を評価し、修正できる 2. 対象の発達段階に応じた援助ができる 1）身体・精神・社会面から発達段階が理解できる 2）健康障害が発達課題達成にどのように影響するかわかり、援助ができる 3. 対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた援助ができる 1）対象の機能障害から起こる各症状に応じた援助ができる (1)現れている症状や今後おこりうる症状が理解でき援助ができる 2）対象の健康障害を把握し、侵襲からの回復過程にある患者の援助ができる (1)生体機能が急激に変化している急性期・周手術期・急性増悪期の対象の援助がわかる (2)生体機能の順調な回復を促し回復過程にあわせた援助ができる 3）危機的状況と不安な状況にある対象及び家族への援助ができる (1)対象及び家族の持つ不安について考え、援助することができる 4. 対象の受けている治療・処置・検査に応じた援助ができる 1）治療・処置・検査が心身に及ぼす影響を考え、援助ができる 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解し行動ができる 1）必要な時に連絡・報告・相談ができる 2）多職種の人々との連携・協働に参加することができる 3）対象の退院後の生活について、家族及び支援者の援助ができる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	成人・老年看護学実習Ⅱ	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実 習 目 的	成人・老年期の特徴を理解し、急激に状態の変化する対象の健康問題が解決できる				
実 習 目 標	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる 2. 対象の発達段階に応じた援助ができる 3. 対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた援助ができる 4. 対象の受けている治療・処置・検査に応じた援助ができる 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解し行動ができる				
実 習 内 容	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる 1）対象を病像・生活像・社会像の３側面からとらえることができる 2）看護上の問題と看護の方向性を明らかにできる 3）目標が設定でき、その優先順位をつけることができる 4）目標を達成するための具体的な計画を立てることができる 5）計画に沿って実施することができる 6）実施後目標の達成度を評価し、修正できる 2. 対象の発達段階に応じた援助ができる 1）身体・精神・社会面から発達段階が理解できる 2）健康障害が発達課題達成にどのように影響するかわかり、援助できる 3. 対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた援助ができる 1）対象の機能障害から起こる各症状に応じた援助ができる (1)現れている症状や今後おこりうる症状が理解でき援助ができる 2）対象の健康障害を把握し、急性期・終末期に応じた援助ができる (1)生体機能が急激に変化している急性期・周手術期・急性憎悪期の対象の援助ができる (2)終末期にある対象の看護ができる 3）危機的状況と不安な状況にある対象及び家族への援助ができる (1)対象及び家族の持つ不安について考え、援助することができる 4. 治療・処置・検査を受ける対象に応じた援助ができる 1）治療・処置・検査が心身に及ぼす影響を考え、援助できる 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解し行動ができる 1）必要な時に連絡・相談・報告ができる 2）多職種の人々との連携・調整に参加し情報提供することができる 3）対象の退院後の生活について、家族及び支援者の援助ができる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	小児看護学実習	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実 習 目 的	小児の特徴を理解し、小児看護を実践する基礎的能力を培う				
実 習 目 標	1. 小児の成長発達段階が理解でき、発達に応じた援助ができる。 2. 健康な小児に対する看護の役割がわかる。 3. 小児の健康障がいを理解し、診断・治療を助ける援助ができる。また、療養生活に必要な援助がわかる。 4. 入院を必要とする小児と家族に対し、必要な援助に参加できる。 5. 健康障がいをきたした小児と家族に対する看護の役割がわかる。 6. 地域の対象を理解し、地域における小児看護の役割についてわかる。 7. 児の障がいや入所生活を理解し、必要な援助ができる。 8. 保健医療福祉チームとの協働の中で、障がいを持つ小児に対する看護の役割がわかる。				
実習内容	1. 形態的・精神的・社会的側面から成長発達が理解できる。 2. 発達段階から日常生活の自立度が理解できる。 3. 自立度に応じた日常生活援助ができる。 4. 園児への援助や保育者からの学びから、健康な小児に対する看護の役割が理解できる。 5. 小児の病態を理解し、対象に必要な援助ができる 6. 外来看護師の役割が理解できる。 7. 児の入院目的を理解し、必要な援助がわかる。 8. 安全・安楽に配慮しながら、小児の援助に参加できる。 9. 小児における家族（特に母親）の役割が理解でき、家族を含めた援助ができる。 10. 援助の実践や看護師との関わりを通して、急激な健康障がいをきたした小児と家族に対する看護の役割が理解できる。 11. 看護師、リハビリ、養護教諭などの関わりから、入所児の障がいの程度がわかる。				
評価方法	評価表に則って評価する				

科　目　名	母性看護学実習	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実 習 目 的	1. 周産期にある母子の身体・心理的な特徴と健康状態への理解を深めるとともに、母性看護の基礎的な実践能力を養う 2. 地域社会に根ざした生涯にわたる母性への支援について理解を深めることができる				
実 習 目 標	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の心身の変化を理解し、対象に必要な援助を考える事ができる 2. 母親役割の獲得に向けての援助がわかる 3. 母児の看護を通じて、母子関係・家族関係についての理解を深める 4. 周産期における看護の役割がわかる 5. 周産期にある母児との関わりから、生命に対する自身の考えを明らかにする事ができる 6. 性教育、赤ちゃん相談等地域における活動の見学を通して、地域の対象を理解し、地域における母性看護の役割について考えることができる。 7. 看護学生としての自覚、責任を持ち、看護を実践する為の態度を習得できる				
実 習 内 容	1.1） 妊娠経過に応じた特徴の理解と妊婦の看護の実際がわかる 2） 分娩経過の理解と産婦の看護の実際がわかる 3） 産褥の経過、新生児の胎外生活の経過と褥婦・新生児の看護がわかる 2.1） 母親への適応過程を踏まえての援助がわかる 2） 育児技術習得に向けての援助を考えることができる 3.1） 母児の早期接触への援助がわかる 2） 母子相互作用への援助がわかる 4.1） 母児の継続看護と社会資源の活用がわかる 2） 対象がセルフケアできるための看護の役割がわかる 5.1） 周産期の関わりから、感じたことや、考えたことを明確にできる 2） 感じたことや考えた事を他者と共有することができる 6.1） 地域の対象者がわかり、対象者のニーズがわかる 2） 必要な支援について理解を深めることができる 3） 他学生と学びを共有し、自分の考えを再考できる 7.1） 看護学生としての自覚を持ち、実習に臨むことができる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	精神看護学実習	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
実 習 目 的	1.精神障害者とかかわり、対象と自己への理解を深め、看護を実践し、看護者の役割を学ぶ。 2.精神障害者が社会でどのように受け入れられ生活しているのか学ぶ。				
実 習 目 標	1.精神障害と症状を理解し対象に必要な看護がわかる。 2.精神科病棟の特徴を知り、治療的環境について理解できる。 3.精神障害者を取り巻く精神保健医療福祉チームの活動を知り、看護の役割がわかる。 4.精神障害者が地域で生活していく際に必要な精神看護の役割を考えることができる。 5.精神障害者との関わりを振り返り（プロセスレコード)、対象と自己への理解を深めることができる。 6.看護学生として適切な行動をとり、積極的に学ぶことができる。				
実 習 内 容	※実習目標の番号に準じる 1.　1）受け持ち患者の全体像が把握できる。 2）受け持ち患者に必要な日常生活援助がわかる。 3）統合失調症、気分障害の病態を理解できる。（学内実習） 2.　1）精神保健福祉法における患者の処遇に関する事項をふまえ、病棟の特徴が理解できる。 2）精神障害者にとっての治療的環境について考えられる。 3.　1）作業療法やﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ療法・就労支援活動に参加し、多職種と看護の役割がわかる。 4.　1）社会福祉施設（救護施設、就労継続支援B型事業所）で実習を通して、その施設を知り、看護の役割を考えることができる。実習後、レポートにまとめる。 5.　1）対象との関わりの場面を再構成し、自己の感情や思考について、認識と考察ができる。 2）自己の言動が対象に与える影響について、考察できる。 6.　1）～8）※実習要項参照				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				

科　目　名	統合実習	単位数	2	時 間 数	90
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年
実 習 目 的	保健医療チームの一員として看護を実践し、専門職業人としての看護実践力を養う				
実 習 目 標	1. 複数の患者の看護を、優先順位と時間の管理を考慮して実践できる 2. 看護チームで協働しながら、看護を考え、実践できる 3. 病棟師長の役割を理解し、看護管理の実際を知る 4. 夜間の患者や病棟の様子を知ることにより、患者・看護・管理について総合的に理解する 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める				
実 習 内 容	1. 複数の患者の看護を、優先順位と時間の管理を考慮して実践できる 1)受け持ち患者の状態を把握し、必要な看護が計画できる 2)優先度の判断をしながら援助が実施できる 2. 看護チームで協働しながら、看護を考え、実践できる 1)学生チームの受け持ち患者の状態を共通理解することができる 2)学生チームリーダーとして、必要なマネージメントができる 3)チームメンバーとして、必要な報告・連絡・相談ができる 4)看護の方針や方法について、チームで追求し、検討できる。 3. 病棟師長の役割を理解し、看護管理の実際を知る 1)病床管理・安全管理・物品管理・職員の管理・看護の管理・他部門との連携など、病棟管理の実際がわかる 2)看護の継続性が理解できる 4. 夜間の患者や病棟の様子を知ることにより、患者・看護・管理について総合的に理解する 1)面会の状況、患者の変化など、夜間の患者の様子が理解できる 2)食事介助、排泄介助、イブニングケアなど、就寝に向けての看護を理解することができる 3)夜間の病棟管理体制について、理解できる 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める 1)受け持ち患者について多職種の人々と情報交換ができる 2)多職種の人々とのカンファレンスに参加し、情報提供することができる				
評 価 方 法	評価表に則って評価する				